

絵本読んだ感想 お薦めの一冊

AIとお話しましょ

磐田市システム導入へ

磐田市は子どもの読書を促そうと、子育て支援複合施設「ひと・ほんの庭にこっと」所蔵の絵本、児童書約百冊について、子どもとロボットが感想を語り合う対話システム「ぴたりえタッチ」を九月ごろ同施設に導入する。また、未就学児向けに、お薦めの絵本を人工知能（AI）が選んでくれるAI推薦システム「ぴたりえタッチ」のサービスも十八日、同施設で始める。

（勝間田秀樹）



ロボットがお薦めの絵本などを提案する「ぴたりえタッチ」

対話システムも推薦システムも、小型ロボットの音声とモニターでの文字を介して行う。施設内の二カ所にそれぞれ、モニターとロボットを各一台設置する。対話システムは、子どもがロボットに本の感想を話しかけると、ロボットがそ

れに対して音声と文字で返事をしてくれる。推薦システムは、ロボットの質問に沿って、興味がある絵本や読みたいジャンルを選択していくと、AIがその子の興味に合わせ、施設が所蔵する五万八千冊の絵本・児童書のうち三千冊を対象に、お薦めの本を推薦してくれる。

来館者は増えているものの、貸し出し点数が減っているといい、読書離れが懸念される中での取り組み。市は、システムを開発するNTTコミュニケーション科学基礎研究所（京都府精華町）、NTT印刷（東京）と連携協定を結び、システム導入に合わせ、市内在住の〇一二歳の子

もがいてる家庭を対象に絵本モニターを募り、絵本への興味や、読書傾向を調べるアンケートを実施する。二十日から八月十日までの間に回答してくれた人の中から抽選で約百二十人に、NTT印刷が作る「パーソナル知育絵本」を贈呈する。二種類あり、タイトルや絵本の文中に、それぞれの子ども名が入り、子どもの関心を引く仕組み。読み聞かせに生かしてもらおう。



三村勇飛丸さん（右から3人目）とトウモロコシの収穫を楽しむファンら＝袋井市で

が育てるトウモロコシは、市のふるさと納税の返礼品としても人気。昨年、大好評だったことから今年も定員を倍増して実施した。レヴズからは四月に現役を引退した元主将の三村勇飛丸さん、五郎丸歩クラブ・リレーションズ・オフィサー

（CRO）が参加した。家族五人で参加した袋井市の鈴木由年さん（四）は「昨年は抽選に漏れたので念願がかないました。三村さんや五郎丸さんと交流できてうれしです」。畑のあちこつで、トウモロコシを手に一緒に記念写真を撮る光景が広がった。収穫後は、場所をどんどこあさば（同市浅岡）に移してバーベキューで交流。参加者ほもぎたてのトウモロコシを焼いておいしそうにはおぼった。また同市のやまも製茶（山崎富社長）はイチゴを凍らせた「削りイチゴ」を提供し喜ばれた。（牧田幸夫）